2.1.6 暖房設備(温水、高温水ボイラ)

提供データの暖房設備のうち、温水、高温水ボイラに関する省エネルギー効果 の算定を行う。

(1)標準的な仕様

A 大学 a 団地の温水、高温水ボイラ 2,583.4Mcal/h を中央値として現地調査を行った。また、これを標準的な仕様とする。

(2)エネルギー消費量の算出

1) 既存設備

過去 3 ヶ年の平均中圧ガス消費量から、年間中圧ガス消費量 32,500Nm3 を算定。

2) 更新後標準的・より効率的設備

メーカーヒアリングにより、更新前後の効率を下記とする。

- ■既存設備----87%*
- ■更新後標準的設備———89%*
- ■更新後より効率的設備――92%* *高尾鉄工所調べ

既存設備のエネルギー消費量と更新前後の効率から、下記の式で更新後のエネルギー消費量を算出。

更新後設備のエネルギー消費量=既存設備のエネルギー消費量×既存設備の効率 率÷更新後設備の効率

その結果、更新後のエネルギー消費量を下記に示す。

■更新後標準的設備———32,500Nm3/年×87%÷89%

=31,770Nm3/年

■更新後より効率的設備——32,500Nm3/年×87%÷92%

=30,734Nm3/年

また、更新後の標準的及びより効率的設備の仕様を下記に示す。

- ■更新後標準的設備———温水、高温水ボイラ 2,583.4Mcal/h
- ■更新後より効率的設備——温水、高温水ボイラ 2,583.4Mcal/h

(3)環境負荷低減効果

- (2) 1) と 2) の差分、一次エネルギー熱量換算及び CO2 排出量を下記に示す。
 - ■更新後標準的設備————32,500Nm3/年-31,770Nm3/年

=730Nm3/年

一次エネルギー熱量換算——▲33GJ/年

CO2 排出量—————▲1.6t-CO2/年

■更新後より効率的設備———32,500Nm3/年-30,734Nm3/年

=1.766Nm3/年

一次エネルギー熱量換算——▲79GJ/年

CO2 排出量—————— ▲ 3.9t - CO2 / 年

(4) 今後 5 年間の省エネルギー効果

温水、高温水ボイラ容量の増減に伴って、暖房負荷と中圧ガス消費量は増減するが、温水、高温水ボイラ稼働率は変化しないものとして、温水、高温水ボイラ容量当たりの省エネルギー効果を算出する。

■更新後標準的設備————730Nm3/年÷2,583.4Mcal/h

=0.283Nm3·h/年·Mcal

($\blacktriangle 0.013 \text{ GJ/}$ 年·Mcal/h) $\blacktriangle 0.00065 \text{ t} - \text{CO2/}$ 年·Mcal/h)

■ 更新後より効率的設備———1.766Nm3/年÷2.583.4Mcal/h

=0.684Nm3·h/年·Mcal

($\blacktriangle 0.031 \text{ GJ/}$ 年·Mcal/h、 $\blacktriangle 0.0015 \text{ t-CO2/}$ 年·Mcal/h)

これを元に、提供データの暖房設備 (温水、高温水ボイラ) 容量の合計 56,107.6 Mcal/h に上記の値を乗じて、今後 5 年間の省エネルギー効果を算出する。

■更新後標準的設備————

0.283Nm3·h/年·Mcal ×56,107.6 Mcal/h =15,878Nm3/5年 一次エネルギー熱量換算——▲711GJ/5年 CO2 排出量——————▲35t-CO2/5年

■更新後より効率的設備―――

0.684Nm3·h/年·Mcal ×56,107.6 Mcal/h =38,378Nm3/5年 一次エネルギー熱量換算——▲1,719GJ/5年 CO2 排出量——————▲86t-CO2/5年